

知事記者会見の概要

日 時：令和4年3月4日（金） 17:35～17:55

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：山新・時事・SAY >

☆報告事項

知事

お集まりいただき、誠にありがとうございます。新型コロナへの対応について申し上げます。

先ほど、危機対策本部会議を開催いたしまして、再拡大（リバウンド）防止特別対策期間の取り扱いについて、協議・決定をいたしました。そのことについてご報告申し上げます。

2月20日に、まん延防止等重点措置を終了したわけでありすけれども、その後、感染の再拡大、いわゆるリバウンドは見られないものの、減少傾向が鈍化している状況であります。

また、今週に入り60歳以上の入院患者数が増加をしております。県全体の病床使用率も30%台前半だったのが、40%程度まで上昇をしております。これまで見られなかった重症者も見られるようになりまして、医療のひっ迫度合いについては、まだまだ予断を許さない状況と捉えているところであります。

一方、「再拡大（リバウンド）防止特別対策期間」は、期間を限定した取り組みであることと、新規陽性者数は下げ止まりの状況であるものの、再拡大というのは見られない、そういったことなどを総合的に判断をいたしまして、医療専門家のご意見も聞いておりまして、3月6日をもって、再拡大、いわゆるリバウンド防止特別対策期間は終了をいたします。

今後は、医療専門家のご意見も踏まえ、ワクチン接種の加速化と第6波で多発している高齢者施設や保育施設、学校でのクラスター対策の実効性を高める「クラスター抑制重点対策」に移行し、3月7日から3月21日まで取り組むことといたします。具体的な内容につきましては、先ほどの本部会議でご説明した通りでございます。

県民の皆様には、改めて不織布マスクの着用やこまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

また、3回目のワクチン接種が感染防止対策の重要な要となりますので、県民の皆様にはご自身のため、また、大切な周りの方、家族のためにも、出来るだけ早く3回目の接種を受けてくださるようお願いいたします。

なお、明日3月5日から、県が実施する大規模接種事業も始まりますので、ぜひご利用いただきたいと思っております。

第6波の1日も早い収束を目指して、県民の皆様、事業者の皆様、市町村の皆様、一致団結して、一丸となってこの難局を乗り越えてまいりましょう。私からは以上であります。

☆フリー質問

記者

山形新聞、田中です。すみません、今回、(対策を)切り替えるということで特に第6波

の減少の鈍化の要因となっているクラスター対策ということで、先ほど高齢者施設であるとか保育所であるとか、実際に現場を確認して課題なんかを確認するということでしたけれども、この確認された課題というものは、この対策実施期間、21日までの間に適宜反映されていくということになるのでしょうか。

知事

はい。県職員がですね、高齢者施設や保育施設を訪問させていただきまして、全部というわけにはいかないのですけれども、そういうことをさせていただいて、課題といったことを、あるいはいろいろな現場を見てこそわかることがありますので、アドバイスができるかもしれません。動線がどうだとかですね、現場を見てやはり、実際にアドバイスもできるものと思っております。

そういったことで、実効性ある対策にしていきたいなというふうに思っているところです。その課題がどういうことか分かったら、すぐ反映させるかどうかという、今のご質問にありますけれども、すぐに反映させられるものは反映させたいと思っております。また、今後時間がかかりそうなものであれば、それについてしっかりと検討して適切な判断で反映をさせていきたいというふうに思っております。

記者

はい、ありがとうございます。引き続きもう1点。特に学校なのですが、来週3月10日にはですね、県立高校の入試が行われます。今回の重点対策の期間は、この高校入試の時期とも重なります。学校の活動、部活動等の一部ですね、制限が緩和される部分があるのかと思いますけれども、大部分に関してはですね、今現在行われているようなこの特別対策期間と同じような学校での取組みになると思います。この時期、保護者の方々、学習機会の確保であるとかですね、学校の休校とか学年閉鎖であるとか、こういったものに関する影響、考えられるかと思いますが、知事としてですね、その高校入試を控えている受験生、そしてその保護者の方への影響をですね、どのように極力抑えていかれるというふうに考えておられるのか、受験への配慮とですね、この感染抑止の兼ね合い、教育委員会と連携確認ということになるのかと思いますけれども、知事としてはどのように進めていかれるおつもりなのかを教えてください。

知事

はい。受験が間近いということでもありますけれども、皆さんのお手元に先ほど配布したものがあろうかと思いますが、(資料に)「学校等へのお願い」とありますけれども、下のほうの欄にですね、「受験等で県外に移動する場合、無料のPCRと検査の活用推奨」とございますけれども、こういったことについては、やはりこれまで通り引き続きやります、無料で取組みますので、ぜひご活用いただきたい、そのことは引き続き継続する予定であり

ます。

それから、学校で確かチェックリストというものをお渡しして、それを徹底するというふうに聞いておりますので、そういったことをしっかりと取り組んでいただいて、うつらないようにというようなことでね、安心安全に受験に臨めるようにしていただければなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。いずれにしても、おそらくこの対策というのは市町村であるとか、学校ごとにとかですね、さまざま対策、その時の感染状況であるとか、ということで差があつてですね、保護者の方も受験生の方も、ものすごく、特に中学生なんかは不安に思われるかと思うんです。そういったところもぜひ、教育委員会とも連携を密にさせていただいてですね、極力影響を抑えるような方向で、不安を解消できるような方向に持っていていただければと思います。以上です。

知事

はい、わかりました。

記者

NHKの桐山と申します。先ほどの会議の中で、専門家の方の意見の中から、今回の対策の焦点になっている、高齢者施設・障害者施設についてですね、面会を原則中止にしてはどうかというご提案もあつたかと思えます。そうしたご提案もあつた中で、今回盛り込まなかったところの理由、どういう判断でこの資料に明記しなかったというところを教えてくださいませんか。

知事

はい。高齢者施設などでですね、それぞれの施設でしっかりと感染防止対策を行つて、私がお聞きするところでは、ほとんどがリアルな面会というのは、なかなかしていらつしやらない。それほど入所していらつしやる方々に対してのですね、配慮、大変しっかりされているというふうに聞いております。病院もですけれども。ですから、そこまでは踏み込んでいないということだというふうに受け止めております。

記者

わかりました。ありがとうございます。あと、感染対策について、実際見て回られるところなのですから、特にどういったところを確認するとかですね、今の段階で決まっていることがありましたら、よろしくお願いします。

知事

そうですね、業界のガイドブックというものがありますので、ガイドラインですね。そういうことをしっかり守っていただいているかとか、あと、動線なんですよ。常時入所している方と、あるいは外から、外来の方とかとですね、動線をしっかりと分けているかとかですね、いろいろなことがあると聞いておりますので、担当のほうでそういったチェックする項目はあるんだと思いますので、そういったことをおそらく現場を見てですね、「こうしてください」という、紙ベースでは今までもお送りしているのですけれども、今回もお送りすると聞いていますけれども、ただ現場にまでは行っておりませんでした。感染したところへは、保健所であるとかそういうところが訪問しまして、いろいろと指導はしていたということでもありますけれども、感染していない施設にまで行ってはいなかったのではないかと考えておりますので、実際に行っているいろいろなアドバイスをすることが今回の取組みになると思います。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形テレビの岡田と申します。よろしく申し上げます。

このクラスターの対策期間でどのような効果を期待されますか。

知事

はい。そうですね、医療のひっ迫を招かないということがまず本当に大事なところであります。

そのためにはですね、ワクチン接種の加速化、そして何度も申し上げている高齢者施設や保育施設、学校、ここでのクラスター防止のための対策を強化するという本当にメリハリのついた、焦点を絞ってそこをしっかりとやるというようなことの対策を取り組みまして、実際に今、オミクロン株で感染が続いているわけでありましてけれども、その減少傾向を確かなものにするというふうなのが目指すところであります。

記者

その最大限の効果を引き出すために、改めてになるんですが、県民の方にはどのようなことを呼び掛けられますか。

知事

はい。なんと言っても基本的な感染防止対策の徹底だというふうに思っております。そして県民の皆様へのご願いというところにあるんですけれども、混雑した場所や感染リス

クが高い場所、そういったところは避けてくださいと、「控えてください」と言うともう絶対行くなということになっちゃうんですけども、そうではなく「避けてください」というふうなやわらかい表現にしましたけれども、やっぱり密になりますし、感染しやすいということが、オミクロン株は本当に感染力が強いので、そういったことはしっかりとご注意いただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

朝日新聞の鷺田と申します。

前のリバウンド防止のほうは終わる一方で、名前が変わって、一方で対策、クラスターに重点を置くというのはわかるんですけども、全体的な対策としては、言葉は悪いですけど既視感があるというか、だからと言ってウイルスに対する対策の妙案があるわけではないんですが、この新たな重点対策というのは我々県民は警戒レベルが上がったというふうに見たほうがいいのか、それともこれまでのですね、特別対策期間とかいろいろ名前もありましたけれども、この緊張感というかですね、そこのレベルというのをどんなふうに受け止めればいいのでしょうか。

知事

そうですね、レベル的にはそんなに変わらないんですけども、メリハリをつけたということがあると思っています。

このリバウンド防止特別対策期間を通じてね、どうして下げ止まっていて確実に減少していかないかということ进行分析した時に、やはりクラスターがもう90件以上出ておりました、毎日のようにクラスターが発生していて、そういうことでなかなか下がっていかないということがありますので、そこに重点的に対策をする、そして3回目のワクチン接種、これをですね、加速するというようなことで、この大きな二本柱でしっかり対策もして減少させていくということに絞ったわけなんです。

それで学校の部活などはですね、逆にメリハリをつけて、5日間感染していない学校の部活はできるというようなところもいたしましたし、本当にメリハリをつけたというふうに思っています。

ですから県民の皆様にとっては、緊張感はず変わらずやはり持っていただきたいと思っておりますけれども、これまでよりもメリハリをつけたところが「みそ」かなと思っています。

県外への移動も「控えてください」ではなくなりました。「しっかり感染防止対策をして」というようなことになると思いますし、それからなかなか周知にならないなと思っている

のが飲食なんですけどね、飲食もいろんな方とお話すると、4人以下だと思っていらっしゃる方がたくさんおまして、そうではなくて一つのテーブルに4人以下なんですけれども、それは一つのテーブルで4人座ってこういった対策をしますと大丈夫といたしますか、いくつもテーブルがあってよろしいわけでもありますので、ただお酌はしないでくださいとかですね、それからマスク飲食に近いといたしますか、お話をする時はマスクをしてというようなことはあるんですけれども、人数も制限はしていないということがあります。

そういった3月といういろいろなことがある時期でありますので、経済活動というようなものも感染防止対策をしていただきながらしていただいて、また、クラスターにならないようにというところだけは、県職員がですね、これまでよりも一歩踏み込んで訪問させていただくというようなこともさせていただきますので、そこら辺が今までとは違うところかなと思っております。

記者

わかりました。ありがとうございます。